

# 報徳思想とその展開

— 近世から近現代へ —

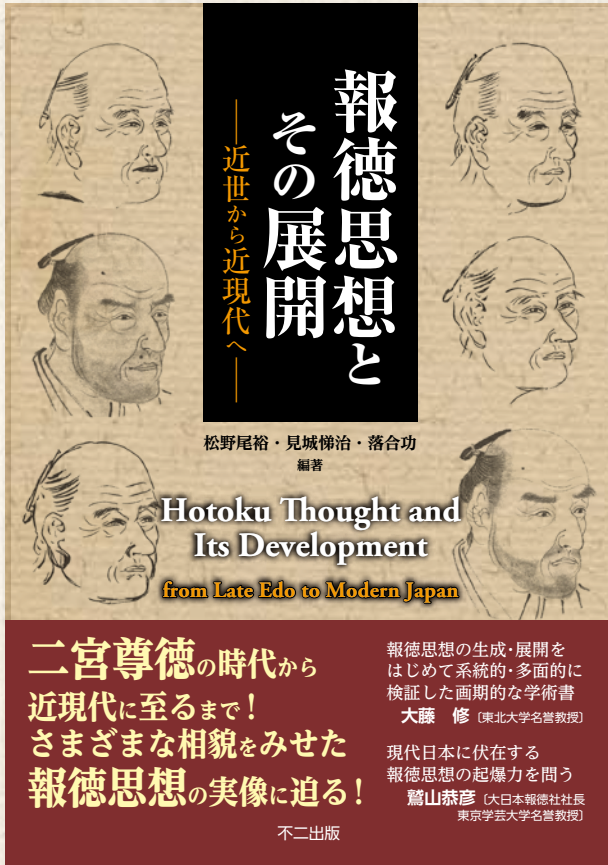
Hotoku Thought and Its Development from Late Edo to Modern Japan

松野尾裕・見城悌治・落合 功 編著

Hiroshi Matunoo, Teiji Kenjo, and Ko Ochiai

2023年  
10月  
新刊!

「経済と道徳の調和」をめざした報徳思想を  
あらためて問い直す、意欲的試み!



定価 5940 円 (本体 5,400 円+税 10%)  
ISBN978-4-8350-8599-9 C3036 ¥5400E  
体裁: A5 判/上製/ 450 頁

尊徳以降の人びとは、「報徳思想」として彼の精神をどのように伝え、みずから実践してきたのか?

報徳思想がめざした「経済と道徳の調和」とはどのようなものなのか? 12名の意欲的な研究者が共同で作り上げた報徳思想研究の「現在」を問い直す本書は、政治、経済・経営、教育、宗教、文学とさまざまな領域を横断し、幕末から戦後、そして現在に至るまでを包括的に捉えようと試みる。「金次郎像のいま・むかし」などのコラムや系統図、関連施設一覧を附し、報徳研究の最前線を示す画期的な一冊!

推薦

報徳思想の生成・展開を系統的・多面的に検証した画期的な学術書

大藤 修 [東北大学名誉教授]

現代日本に伏在する報徳思想の起爆力を問う

鷺山恭彦 [大日本報徳社社長/東京学芸大学名誉教授]

本書の構成

第I部 報徳思想とは何か

第一章 報徳思想の基本的性格 (松野尾裕)

第二章 二宮尊徳の仕法と思想 (早田旅人)

第II部 報徳思想の誕生と展開

第三章 幕末から明治前期における報徳

社の伝播と発展 (坂井飛鳥)

第四章 報徳運動と文芸 (伴野文亮)

第五章 岡田良一郎の地域秩序観と報徳

社 (伊故海貴則)

第六章 道徳と経済の調和 (落合功)

第III部 報徳思想の多様な広がり

第七章 大正期の報徳社運動 (足立洋一郎)

第八章 一九二〇年代における「熱と愛

と力」の報徳思想 (見城悌治)

第九章 社会運動のなかの報徳思想 (藤木

達也)

第一〇章 教育政策・教育実践史にみる

報徳思想 (須田将司)

第IV部 報徳思想のいま

第十一章 報徳運動の現在 (飯森富夫)

第十二章 報徳研究の現状と課題 (附・主

要文献目録) (見城悌治・飯森富夫)

コラム 金次郎像のいま・むかし/北海道

と報徳/報徳思想と文学/地方改

良運動と報徳会・報徳社/報徳と

植民地開拓/報徳思想の戦後

附録 報徳社系統図/報徳関連施設・史

蹟一覧/索引

## 大藤 修

報徳思想は、近世末期、政治・社会の激動の渦中において、社会の基礎をなす「家」と「村」を建て直し、「富国安民」を実現するために奮闘した二宮尊徳が創唱したものだ。単なる道徳思想ではない。人にはそれぞれ個性があり、才能も異なる。同様に天地と動植物・鉱物や気象などもそれぞれ固有の特性・長所を備えている。尊徳はそれを「徳」という概念で表した。人間社会は各々の人や天地万物・万象の徳が調和することによって成り立ち、自己が生存できるのもそのお蔭である。そのことに感謝し報いる気持ちをもって、自己の徳を発揮するとともに、他者や天地万物・万象の徳を見出し、人間社会のために役立て、万人の幸福と社会・国家の繁栄

に貢献するのが、尊徳の説くところの「報徳の道」である。この思想は、多様性の尊重と共存・共生がうたわれている今日、顧みるべき価値を大いにもつていよう。では近現代において、人びとは直面する課題に向き合うなかで、それぞれの立場から報徳思想をどのように解釈し、実践してきたのか。その歴史的意義は何か。それをさまざまな分野の研究者が検証した本書は、報徳思想の生成過程と近現代における多面的な展開を初めて系統的に跡づけた画期的な学術書と評価できるが、報徳思想を今日に活かす立場からも多くの知見を得られる内容となっている。

(おおとう おさむ・東北大学名誉教授)

## 現代日本に伏在する報徳思想の起爆力を問う

## 鷲山 恭彦

メジャーリーグで活躍をしている大谷翔平選手、菊池雄星選手を輩出した花巻東高校は、「報徳」を校是に掲げている。この報徳思想は明治維新による近代化、第二次世界大戦の敗戦、経済成長とその後の不況、たび重なる巨大災害を経た現代日本において、いまでもその底流に脈々と息づいている。「民衆思想」として捉えられてきた報徳思想だが、それは近代以降の日本社会とその思想を理解するうえで、驚くべき起爆力をもち続けたのである。

本書はそうした報徳思想の流れを、専門分野、年齢も異なる研究者たちが、自らのフィールドの知見を活かしてその全体像を捉え、客観的に記述しようと試みた意欲的な論集である。経済・経営思想、社会思想、近世史、近代史、教育史等を専門とする執筆陣が、報徳研究の最前線に肉薄する本書が

刺激的でないはずはない。日本社会に伏在する報徳思想を究明するという挑戦は、研究者はもちろん近代日本の本質がどこにあるかを問う読者の、知的好奇心を満足させるだろう。

尊徳の教えに「積小為大」という言葉がある。小さなことの積み重ねが、やがて大きなものを生み育てるという意味だ。積み重ねは、新しい質的な変化を生み出す。たとえ小さな思考、小さな知識であっても、積み上げるとそれは大きな起爆力を生む。本書に示された試みはわずかな一歩かもしれない。しかしそれは多くの人びとに尊徳の考えの再考をうながし、報徳思想がもつ今日的な意義をみずから発見させ、その起爆力を開花させる礎となるものと確信している。

(わしやまやすひこ・大日本報徳社社長／東京学芸大学名誉教授)

編著者

松野尾裕 愛媛大学名誉教授  
見城悌治 千葉大学大学院国際学術研究院教授  
落合 功 青山学院大学経済学部教授

著者

早田旅人 坂井飛鳥 伴野文亮  
伊故海貴則 足立洋一郎 蔭木達也  
須田将司 飯森富夫 張 永嬌

※本書執筆順。

不二出版

〒112-0005 東京都文京区水道2-10-10

TEL: 03 (5981) 6704 FAX: 03 (5981) 6705

注文カード	帖合・貴店名	注文数	不二出版	松野尾裕・見城悌治・落合 功 編著	お客様名
			報徳思想とその展開 — 近世から近現代へ —		お電話番号
			定価● 5,940 円 (本体 5,400 円+税 10%)		ご注文 年 月 日
		冊	ISBN 978-4-8350-8599-9 C3036 ¥5400E		